第１回　宗像市スポーツ推進審議会議事録（要旨）

|  |  |
| --- | --- |
| 日　　　　時 | 平成３０年７月１１日（水）　１９:００～２０：００ |
| 会　　　　場 | 宗像市役所第２委員会室 |
| 出席者 | 委　員 | 市丸　梅田　内　寺尾　末永　橋本　吉田 |
| 事務局 | 磯部　古沢　山本　瀧口　濱本　末弘　青木 |
| 欠席者 | 委　員 | 乗越 |

1. 会長あいさつ（市丸会長）

２. 審議事項

1. スポーツ推進計画進捗状況（資料１）・・・▽はH29実施、○はH30予定

[事務局より説明]

１．「スポーツ・運動を通した市民健康活動の推進」

▽商工会青年部が主催の「むなかたウォーキング」に239名の参加あり。

▽南の郷クラブの南郷地区コミュニティ運営協議会への編入に向けて協議中。

○睡眠に特化した新しいアプローチから健康づくりの確立を目指す。

２．「スポーツ・運動を通したコミュニティ活動の活性化」

▽全コミュニティの推薦により23人のスポーツ推進委員を選出。

○H30.4末で2年間の任期が終了するため新しい候補者の選出が必要。

３．「子どものスポーツ機会の充実」

▽民間スポーツ教室などから講師を派遣し陸上教室を実施。また日本代表との交流会も実施。

▽各種セミナーの開催、指導者向け講座ではメンタルトレーニングを実施。

○指導者向け講座では、ペップトークを実施予定。

４．「若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体力つくり支援等のライフステージに応じたスポーツ活動の推進」

▽睡眠を切り口としたプログラムの実施。

○今年度も睡眠を切り口としたプログラムを日本スポーツ振興センターと共同で実施予定。

▽宗像、北部糟屋連携プロジェクト「しこふむ」事業の全世代対象ウォーキングイベント　荒天中止。

▽障がい者のスポーツ支援として、福祉施設で笑いヨガやボッチャの普及員を招聘して体験会を実施。

５．「住民が主体的に参画する地域スポーツ環境の整備」

▽宗像市スポーツサポートセンターの開設準備。

○宗像市スポーツサポートセンター30年4月オープン。

６．「スポーツ観光による地域経済活性化」

▽ラグビー日本代表宗像合宿。

▽宿泊を伴うグランドゴルフ大会の誘致を検討。

７．「スポーツ活動の場の確保」

▽スポーツ施設の一元管理に向け、30年度の指定管理開始に合わせて、ふれあいの森総合公園を8月からインターネットで管理を行えるよう準備。

８．「中核拠点となる施設の再構築と整備」

▽ふれあいの森総合公園の駐車場を増設。グランド改良も実施。

1. 今年度の主な事業について（資料２）

[事務局より説明]

〇ペップトーク講演会

地域の指導者向けにペップトーク（運動能力を発揮できる言葉かけ）の講義を行う。

〇A4Sプログラム

運動を始めるきっかけに睡眠の質を改善するという切り口。昨年は親子で募集をし、運動プログラムを提供するだけではなく、子どもと楽しみながら実践。寝具、時間、生活習慣の三つの要素に加えて運動を行うとよく眠れる。さらにアプリを使い2ヶ月間実施。その後参加者はヨガを始めたり、通勤に自転車を使ったり、家でエアロバイクをこいだりして、変化が見られた。今年度も変化を加え実施予定。

〇宗像市スポーツサポートセンター

広報を拡大し、教室、インボディの利用のほかに、今後多目的室も利用してもらう。今は市民体育館に来た人に対応しているが、今後は出向いていくことも検討。

〇オリンピック、パラリンピックのキャンプ地誘致

一年前まで不透明であったが、国際交流があったブルガリア、ロシアのキャンプ地として決定。

・ブルガリア柔道

昨年の12月に調印式、トレーニングキャンプを行うことが決定。教育大、福岡大と手合わせを行う。また、大学生との練習だけでなく、子どもとの交流や稽古も実施。市民交流はスポーツだけではなく、大島での餅つき、吉武小学校で書道や給食交流も実施予定。

・7人制ラグビーロシア女子代表

今年4月にグローバルアリーナにて事前キャンプ、その後大会に参加。地元のラグビーチームとの交流、東海大福岡高校で部活体験、園児との交流を行う。市民交流以外として企業交流や食文化交流も行った。

・パラバドミントン日本代表

キャンプ地誘致し、グローバルアリーナで合宿が決定。合宿期間中に一昨年は市民交流、昨年は城山中学校、今年度は中央中学校で交流を行った。

2020年へ向けてスポーツ合宿を盛んにし、地域全体の活性化を加速させていく。2020以降の在り方も今後の検討事項。

[質疑]

〇南の郷クラブはどう南郷地区コミュニティ運営協議会に編入していくのか。

→南郷コミュニティの一つの柱として南の郷クラブを編入させたい。予算的に独自での経営が難しかったのでコミュニティ編入という形になった。本来の計画では市民体育館をもとに総合型を形にしたかった。ただサポートセンターができたので来年、再来年から形にできたら、市民体育館に色々な人が集うようになる。

〇グラウンドゴルフ誘致は宿泊を伴うが、どういう場所を考えているのか。

→九州ブロック大会の誘致をグローバルアリーナでできないか検討中。

〇グローバルアリーナに宿泊するのは高齢者には厳しい。温泉のあるところなどで具体的に計画をする必要がある。

→グローバルアリーナは研修用の部屋が多いが、バス・トイレ付きの部屋もできた。ロイヤルホテル宗像などもある。グローバルアリーナに平日に宿泊できるようにしていきたい。できるだけ大きな大会にしたい。

〇ふれあいの森は宗像緑地と連携してどうなったのか。

→現地に申請書を提出する必要がなく、パソコンで管理できるので借りやすくなるし、大会の調整もしやすくなる。

〇A4Sとは何の略か。

→アクティブフォースリープの略。日本スポーツ振興センターと共同実施する事業名称。睡眠プログラム事業として筑波大と連携しているので専門的なフィードバックがもらえる。またアプリを活用して実施。

〇サポートセンターは業務委託をしているにもかかわらず、市の職員が毎日交代で常駐するのはどうなのか。市の職員がサポートセンターにいる必要性が感じられない。委託をするならプログラムを作り、委託する。本庁の仕事をするなら本庁で、サポートセンターの仕事をするならサポートセンターで行うのが基本である。今の状態は中途半端ではないか。何のためにサポートセンターを作ったのか。組織を作ったのなら人は必要なのでローテーションでは中途半端なことしかできない。

→昨年スポーツ推進係の職員を全員執務させるつもりであった。委託先のエイコーウェルは運動に対しての知識があり、市はそれをつなぐ役割。一緒に企画をするという意味では無駄ではなかった。今後は受益者負担でサポートセンターを経営していきたい。健康の増進は医療費等の削減につながるので、成果が出せるなら莫大な資金をつぎ込める。

また、エイコーウェルとともに働くことでお互いに気づく視点が違い、参考になっている。エイコーウェル、文化スポーツ課、健康課とのミーティングを行ったが、情報共有は大切だと改めて感じた。今はまだ立ち上げて間もないのでサポートセンターにも市の職員が必要だと考える。形が決まってしまったらローテーションではなく嘱託でいいかもしれない。

〇サポートセンターはスポーツ推進計画の目玉。設置し立ち上がったが、拠点は文課スポーツ課なのか？サポートセンターなのか？

→両方。文化スポーツ課がイニシアティブをとり、サポートセンターが中核となる。計画から変わってはいないが、職員の異動もあり出遅れてはいる状況。今年の秋くらいには形にしていきたい。

〇サポートセンターの理念は市町村レベルではなかなかないもので、素晴らしい。行政、体育協会、スポーツ推進委員等と連携する必要がある。市民には役割分担が見えてないのが課題である。役割分担の整理は行政やサポートセンターに行ってもらいたい。ただ事業をして終わりではなく体育協会等の自主運営も必要。

→総合体育館は無理だったがサポートセンターもお金をかけて作っている。遅れてはいるが中核拠点とし当然形にしていく。組織化を年内に行う。

〇サポートセンターの広報は市民へどのくらい進んでいるのか？

→HPに随時情報をアップしているが、HPを見ていない人も多い。8月に広報タウンプレスに掲載予定。